ボランティアによる白神山地周辺地域の森林環境整備の実施について

津軽森林管理署　砂子瀬森林事務所森林官　田澤　一晃

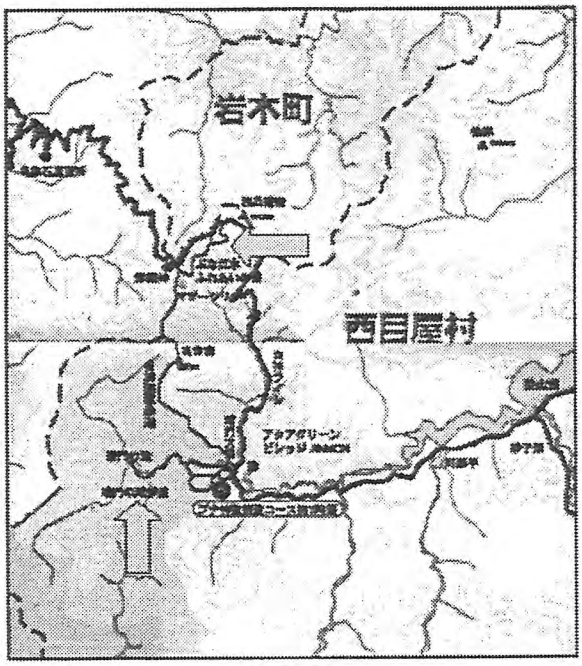
1　はじめに

平成17年10月、青森県において「第二回世界自然遺産会議」が開催されたことから、連日のように「世界遺産白神山地」が報道された。多くの課題がある中で、「自然保護と周辺の活用」については、国有林としてもその対応が求められる課題である。

ここ、白神山地西目屋地区においては、世界遺産指定後、来訪者が一気に増えたものの、近年は12万人程度で推移している。

しかし、その来訪者の多くは、暗門の滝を中心とした暗門地区に偏っている。

夏休みの7～8月と紅葉期の10月の休日日には1日2千人を超える入込者があり、歩道の狭さや降雨後の歩道の悪化などにより、オーバーユース対策の必要性と、降雨による暗門沢の増水時には、一部歩道が危険となるため入れないことから、これに代わる地区への入込者の誘導の必要性が議論されるようになった。



位置図

このことから、平成14年度に暗門地区から9km離れた、県道岩崎・西目屋線、通称「白神ライン」沿いの津軽峠付近に、かつて木材を搬出したトラクター道を遊歩道として整備し、「ぶな巨木ふれあいの径」と名付けた。

この歩道は、旅行誌にも取り上げられ、年々来訪者も多くなり、観光パンフには、暗門の滝方面と津軽峠方面の二カ所が選択肢として掲載されるようになった。

また、修学旅行生の自然体験の場としても活用されだしたところである。

特に、津軽峠から徒歩３分程度で行けるマザーツリーの愛称で知られているぶな巨木には、弘前市などからタクシーで訪れる人も多くなった。

修学旅行新聞記事

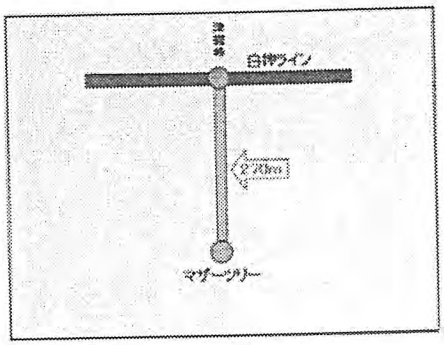
2　森林環境整備の必要性

この歩道整備から３年が経過し、トラクター道を活用した歩道のために、少しの雨でも水が溜まり、ぬかるみ状態になる。

このため、往来が困難になることもしばしば見受けられた。まだまだ、オーバーユース対策の歩道としては未完成であり、ガイド等からも、もっと充実させてほしいとの要望が出されるようになった。

以上のことから、当面、利用者数の多い県道からマザーツリーまでの間、２７０ｍを整備することにした。

整備前：ぬかるみの状態



3　整備の概要

（1）　整備に当たっての条件

歩道の整備施工に当たっては、自然遺産の周辺地域であることから、自然保護等に配慮し、次の条件の元に実行することとした。

①　事前に整備内容を公表し、関係者に説明すること。

②　施工には、自然素材を使用すること。

③　多くの方が自然体験できるように、バリアフリーとすること。

④　白神山地に関わる多くの団体等に呼びかけ、ボランティアによる実行とすること。

この整備内容は、青森事務所と連携の元、平成17年度事業計画の記者発表により公表した。

また、6月3日に当署主催で行った、「白神山地世界遺産周辺地域における森林ボランティア団体による意見交換会」においても、施工内容等の説明をし出席者の同意を得た。

また、歩道の整備と同時に、マザーツリーの根の踏み固めの影響を防ぐ対策が必要との意見も出され、対策を検討することとした。

素材、施工の方法としては、自然素材の使用ということで色々検討を行った結果、環境リサイクル製品である環境保全型舗装資材による「シャワー工法」が開発されていることを知り、採用することとした。

この工法は、土と間伐材や街路樹の剪定等のリサイクル材をチップ化したものに、無機系固化材、透水材、保水材を加え、一定の厚さに敷きならして水を加え固めるものである。

また、実施に当たっては、白神山地に関係する各種機関や森林ボランティア団体等に広く呼びかけた。

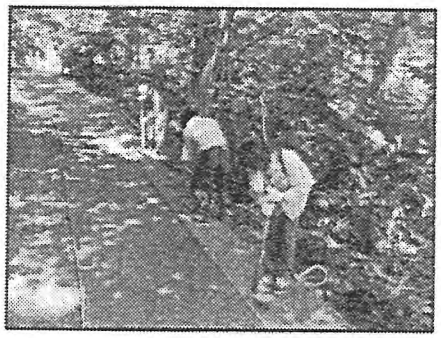
（2）施工

施工は、7月の14日，15日の2日間にわたって、10団体のボランティア、延べ85人の参加者を得て実施された。

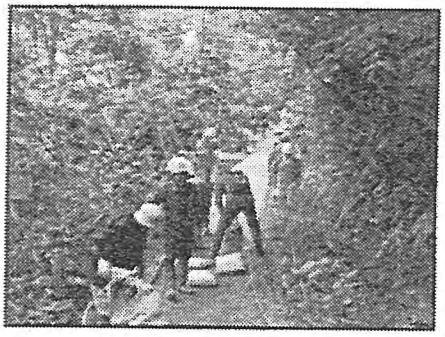
整備歩道は、路盤が柔らかいこと、建設機械が入れないこと、水の供給が6トン必要なこと等の施工上多くの問題もクリアして、同月19日に開通をみた。

施工経費は１ｍ当たり、８，６００円であった。

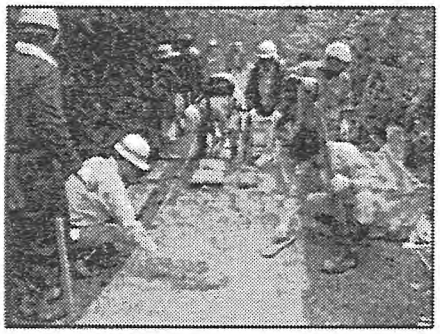
作業着手前の説明の状況



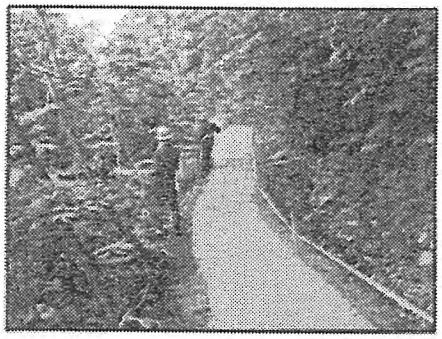
路体の外側を固めている様子



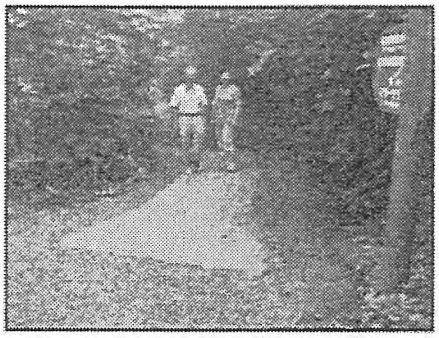
敷き詰め



敷きならし



散水



完成

更に6月3日の意見交換会で出された「マザーツリーの根の保護を」との意見を受け、デッキ設置による根の保護対策を引き続き実施した。

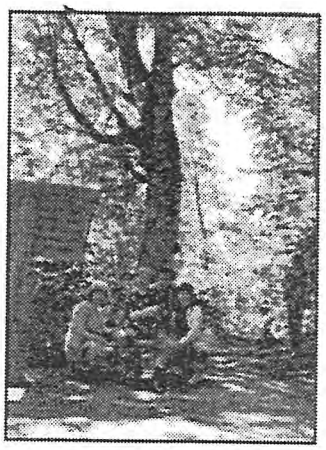
（3）　整備後の反響

この整備について、新聞紙上に報道されたが、特に自然保護等の問題提起はなく、整備の理解が得られたものと思われる。

また、早速、新聞で知ったという札幌の方が 7月23日、家族に付き添われて車椅子で訪れていた。

デッキ新聞記事

整備新聞記事



車椅子来訪者

その後、白神山地周辺のガイド団体へアンケートを実施したところ、８割の回収率で、14の団体から回答が寄せられた。アンケートの結果から年間の利用者はおよそ一万人程度であると推定される。

意見として、過剰整備との意見が一団体あったが、「年配者・軽度の障害者から大好評」等との意見が多く、他の歩道の整備、新歩道ルートの設定をしてほしい等の意見もあった。

４　まとめとして

○当初から整備の方法等の情報を公開したこと。

○多くのボランティアに参加を呼びかけたこと。

により、スムーズに実施できたものと考えられる。

まだまだ、白神山地暗門地区のオーバーユース対策については、考えてゆかなければならない問題であり、今後も、地元住民はじめ関係各位のご意見を反映した、白神山地周辺地域の環境整備に努めてゆきたい。